

私が通っている英会話教室の先生と地獄の話になりました。万国共通と思っていたのに違いがあり驚きました。

「日本はどんな人が地獄に行くの？」と聞かれたので、「天国と地獄の分かれ道の手前で閻魔大王に生きざまを確認され、良いことをしていたら天国、悪いことをしていたら地獄というように行先を判断される」と伝えました。

一方で英会話教室の先生の国には閻魔大王は存在しません。「死後に自分が出会った全ての人に会い

⑤ 海外の地獄



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

に行き、天国か地獄か判断してもらおう。だから、出会った全ての人を大切にすることで幸せになれる」という話でした。とても単純で分かりやすく、すてきな生き方です。



そう考えると心当たりがありません。今年4月に抜てきされた吉本新喜劇の脚本家に推薦してくれたのは新喜劇の同期芸人さん。また、

出会う人を大切にしてお得られる幸せ

探偵・ナイトスクープの依頼をくれたのは、芸人時代に出演していたクイズ・紳助さんのディレクターさん。大きなチャンスのほとんどが過去に良好な関わりがあった方からの依頼です。今の自分だけでなく、過去の自分も褒められている様で自己肯定感が高まり、生きながらにして天国にいるような幸せな気持ちです。



逆に悪印象を持たれるような対応をしていたら、チャンスの機会は少なかった。さらには、恨まれるようなことをしていたら...

私は中学校の時にいじめられていました。最初は言葉、小突くから始まり、ビンタを経て、意味もなくけんこつで殴られる。暴力のエスカレートが止まりません。最終的には目をボールペンで刺されました。しばらくは見えない時期があり、「一生このままかもしれない...」ずっと不安でした。授業中起こったこの件は大きな問題となり、その後のいじめはなくなりました。

しかし、けがをした瞬間だけでなく、視力の回復まで不安なおびえた日々、いじめのループから抜け出せない絶望感の記憶は簡単に消えるようなものではありません。もうすぐ50歳になりますが、帰省する時は、最寄りの駅から「会ったらどうしよう?」と実家に到着するまでいまだに心が落ち着かない自分があります。



その人はもう忘れていくかもしれませんが、出会って何かされる訳でないことは十分理解しています。しかし、30年以上たった今でも辛い思い出は払しょくできず、生きながらにして地獄のような苦しみを抱えています。

だからこそ、人を傷つけてはいけません。私の場合は暴力でしたが、言葉や態度も同じです。若かったからなんて言い訳にもなりません。ニユースを見ていると大人の世界でも人を傷つける行為がたくさんあります。地獄に行きたくないからではなく、出会う人を大切に楽しくすてきに今を生きませんか?